東北商工時報

毎月三回一日十日廿日發行
編輯兼發行人　堀越梅吉
印刷所　福島縣平町一丁目廿一　東北商工時報社
廣告料　一行金一圓　一部金十錢　一ヶ月廿錢
一ヶ年郵税共三圓

大小名濱建設の爲めに

町民の奮起を望む

小名濱は本縣の玄關である

拾年前までは縣隅の一漁港として僅に其存在を認められ夏季の避暑、海水浴場として殷賑するに過ぎなかつた我小名濱町も縣の商港修築計畫と共に地方民の自覺奮起と業界有力者の應援に依つて漸く石城の小名濱より福島縣の小名濱となり東北の小名濱として全國的に其存在を認識せらるに至り前途益々發展興隆せんとして居ることは地方民の慶福して止まざる處である。

常磐炭礦界の殷盛と地方産業の發展と相俟つて小名濱港が將來益々隆昌殷賑を來す可きは必然の趨勢であつて町當局を初め地方民は協力一致大小名濱の建設實現に向つて努力邁進して居るが將來多望樞市の地であるだけに亦施設計畫す可き事業も亦決して少くない。

商港の修築工事も遠からず完成を見る可く之と同時に大小名濱形態と面目を發揮せしむが爲めには差當り實現せねばならぬものは第一に上水道工事、火葬場設置、魚市場の施設自動車道路の完成、運河の開墾、鰯干場の移轉等で小名濱町長小野晋平氏を初め、町當局、町民は協力一致之等大事業の實現と大小名濱建設の都市計畫に向つて努力しつゝあるが小名濱本年度の事業計畫としては町營火葬場の設置九千圓、魚市場の開設工費約八萬圓を以つて四月中着工、道路下水の改修、水道の完成等にして鰯干場の移轉は海水浴場の衛生上極めて緊急實現を要する問題にして一日も早く其實現を要す可く之等各種大事業の完成には巨萬の費用を要し財政難の今日町當局の苦心町民の負擔過重は容易に非らざるも將來大小名濱を實現する上には現在の困難を忍びても町民の協力一致に依つて是非共實現せねばならぬ問題である。

從來本縣の産業、經濟の施設開發の方針としては他の商工業に比して水産港灣の事業は比較的閑却されて來た憾がある、然しながら海洋は無限の寶庫であり港灣は地方發展の關門である。

我小名濱町は此の意味より見て實に本縣の玄關口であり心臓である。

小名濱商港の完成も目前に迫つて居る地方民は此際自覺奮起以つて大小名濱の建設に邁進努力する事が緊急重要なる問題である。幸に小野町長を初め町民は協力一致此目的に向つて勇往邁進しつつある事は大に喜ぶ可く慶祝す可きことであつて小名濱町の前途は正に洋々として春海の如く多事多福なりといふべきである。

（つづく）

平松ケ岡公園情景

今が櫻のまつさかり

全園花の研美と香に匂ふかと醉拂ひに踏倒されそうである、各種團体の中に松ケ岡公園の人出の多いこと

と賑かなことうか〳〵しては今日こそ隱藝の一曲に藝妓舞子によだれを流させふとする色男があると思ばのよサ、例年ながらときわの女將や春木屋のノーさんなど粋な姿の赤襷で書き入れ時の戰さゴッコに餘念がない。

流石に平素は靜かな公園でお手々を引合つた戀同志も人雜みの中ではそふもならず目と目で物を言ふ幾分の遠慮体が賑かな内にも氣の毒だが若い時二度ないうんとやれなんて言ふと風俗懷亂教唆で叱れからそれは言はないが――千差萬別花見情景のいろどりは全く面白くも愉快である。

序に…今年は景氣の加減か賣店も相當の實入りがあるようだもう天氣も定まつたから雨も降るまい年に一度の行樂だ皆んな出て遊ぶことが櫻の研美に對する禮讚だらう。

「酒なくてなんの己れが櫻がな」とガブリ〳〵酒ばかり飲んで御座る猩々殿や。可愛い孫にお手々を引かれながらもオバーさんが殷々と「鶯啼かした事もある」

一德合資會社の本社を訪ふて

若き果れた

合資會社だから裁判所の登記簿を見れば判ること、思つてねざ〳〵裁判所まで出張して金十五錢の手數料を支拂ひ登記簿閲覽の結果漸く判明亦再び北一番町に逆轉して漸く尋ぬ當てたのが一德合資會社代表社員である千葉善九郎老の控邸であ

る。刺を通ずると十七八歳の行儀のよい娘が出て來所用上折々仙臺へ行く關係上本社の内容も調べてから掛で道具の構人を進める會社としては何等事務用の設備をしたいと思つて仙臺の北一番町九番地所在の本社を訪ふて見たが、そふした看板のかゝつた社らしいものの丸い小さな火鉢一つある座敷に寒さを堪らへて待つてゐると間もなく出て來られたのが善九郎老である。

年六十路を越え七十に近い老年で人品は良いが病身らしい人だつた。

一應の挨拶も濟んだ後會社の營業方針をお訪ねして見たが更らに要領を得ないのみか社員の名儀も萬足に暗記してゐない程だつたのでこれ以上聞くのも氣の毒の樣な感がしたが「平の出張主任はどんな方ですか」との訪ひに對し「善九郎老は而も卒直に平方面の成績が良いことは誠に結構ですコレデ仙臺で」やつて居たニコ〳〵」會社の穴埋めも出來る理ですよと已れ等は勸なからず驚と共に穴埋にされる平方面の者こそ誠に良い面の皮であると思はれた。

平町へ日掛貯金で箪笥や長金を預ける者の身になれば相當の考慮と往意を要する次第であるが實は我れ等も心配なしといふ結構な會社が出現した湯屋。庄屋など一つ加入して見ようとの氣へ押張付た營業ビラなどもあつたので……それには

所用上折々仙臺へ行く關係て代表社員氏に取次ぐ（日掛で道具の構人を進める會

東北春秋

●圖々しいにも程のある鐵道員、絽紗服を着てゐる處多分雇らしい年齢は廿四五黑いセルロイド製の眼鏡をかけた男だつた、汽車は平發四時四十五分であつた。

花見客の歸りもあつて客車内は甚だ混雜を極めてゐたにも不拘大きな面をして二三人前も座席を取つて寢てゐる、婦人等はかける席もなく立つたまゝで氣の毒だつたが車掌に叱言を喰つて漸く起きたそして草野驛で降車した、コンナ圖々しいのが鐵道省の一員であるかと思ふとなさけなくなるドウセ出の出來ない男ではあらうか

●此の間のことであつた平町仲町佐藤某の葬儀の折り慈母に別れた（娘中第二五年生）が悲なしくも淋しくも涙のある限り泣いてゐた時だつた少女の受持教師が悔に來られて實に他所の見る目も涙に流む慰めをして居られたその如何にも師としての立派な態度に對して傍に居た、記者も涙に咽ばせられた彼の樣な教育家があつて立派な主婦も養生される理ではある。

小名濱より

KOMINATAFURUKAWA

明るい電燈に照されて布團にくるまつたり、ながく寢そべつてゐる者や、只一人りぼつちでお酒を相手嬉しがつてゐる鈴木君。月が出てゐるのかも知れない、四邊は爪々とした明るさで一ぱいである、社長は小名濱の將來に就ての原稿を書けと云ふ命令だ、小名濱を書くことは今更ながら記者としての心持に對し敬虔な念が生じて嬉しくなつた今宵も旅宿でやまと。こまづ兩裾からしんみりとした話を聞くと云ふ望みが胸に湧いてゐるだけにこの旅か一入を樂しく思はれた、そして自分と○○裙とは色々の境遇に置いて思ひ耽るのが尠からず潤々情緒を潤した歡樂が盡きて。エロップメント。をする男女旅から旅へ流れ歩く歩く門付のふたり。夜逃して行衛さだめぬ旅の夕間暮思ひはふさはしい。

あゝ今年の春の夜のうつゝごゝろに見たなつかしい追憶である。

自分はハッと夢から醒めた熱を病んだ女肌に不意に觸れたやうにそうとして美しい夢から覺めた。

本社支局
石城郡小名濱町
双葉郡富岡町
相馬郡原町
信夫郡飯坂町
東白河郡棚倉町
東京市足立區本木

TAIRA
TELEPHONE
9

相双版

富岡記念公園の櫻は
町の振興を暗示するかのように
今年こそウンと咲いた

紅く彩色つた記念公園の櫻花を觀よ――!!!

枝は重く折れそふにも思ふ程蕾を持つた、滿開の美觀想像に餘りあるものがある。

今や眠より覺めて富岡振興の燃心に一歩を踏み出した町民の意氣と活動にして富岡町に生を有する。花なるが故に心ありて花は喜んで萬朶として咲き出るのであらう。

今年の富岡町はいそがわしい町繁榮の對策に、學校の建設に土木監督所の亦新築さるゝあり、果ては何々と町内は繁忙氣分に滿たされんとして道往く人に生氣ある足取りを見るも嬉しい程である。

花よウンと咲いて町民の幸榮を祝福してくれ頼むゾヨ

君の心は快して無汰にはされぬ、今年の花見は地元中川區長を初め、消防組頭の大原榮三郎氏等が先だちて花見氣分に一會の興を添ふるそうである。

勤儉力行の感化

双葉郡富岡町に農具製作の權威者として知られてゐる、坂本榮助翁は齡既に七十路を越へてしかも至つて健康であるが翁は平常雞鳴に起きて夜は月光浴びて歸るといふ活動家である上に農具改良研究のためには終世を擧げて盡力を續けてられてゐる農業界の恩惠的人物であるがために町内の人物は翁の感化を受くる者多くある中にも翁と部落を共にする某魚行商人の如きは毎日小名濱迄魚の買出しに行きそれから近郷近在を夜まで賣り歩つて魚を賣つてしまうと夜業に亦怠りないので近頃メキ〳〵と懐工合もよく附近の評判者になつてゐるが、魚屋は常に言つてゐる。『私は坂本さんを見習つてこゝ迄働ける事になりました』と

原町振興作の一
町營電氣愈々實現？

相馬郡原町では兼ねて企畫された町振興作の一としてけす電力のみの購入によつて町營電氣實現に猛進中であるが年額七萬圓を各種官應その他町民が電燈會社へ徴收される關係から之れを町營にすれば別に發電所を設ける丶中風趣に富む高所に艶美を競ふ原町夜の森公園の觀櫻こそは亦一段の樂みに滿たされることである。例年花見頃は原町の春季競馬の人出が手傳つて押すな〳〵の離踏を極め、賣店など半年分喰ふ位の懐ろは溫まる程だとさへ云はれてゐるが本年は種々餘興等もあるとかて一般の賑いを呈するだらふと云はれてゐるが氣の早い連中は滿花下、花見手拭イナセの鉢巻で東京音頭や相馬流山に況を添へてゐるのがポツ〳〵見受けられて此所三四日の内は原町一帶は競馬と花見氣分で大波小波の賑ひを呈することでならふ。

原町の競馬
盛會を豫想さる
本月廿七、廿八、廿九卅日の四日間

原町の庄司卷造氏を會長とする相馬、双葉、産馬畜産組合主催原町競馬會は遂年其の盛會を增進しつゝあるが聞く處今回行はるゝ春季競馬會には各方面より前年に比し優良馬多數の出場を見ることになつて居るので一會の盛況を豫想されてゐる。

太田村の村内
勞賃銀統一決定

敎化村太田村に悉く圓滿と豐榮に輝いてゐるが這般農會變代と村内一般勞動者と協調の結果左の如く決定した

賃金は男女均一と田植七十錢普通年間四十五錢、桑畑耕手間五十錢であるが田村婦人が勞動者が如何に働くかを立證されてゐる。

石田區長等
熱心な監督のもとに

里道改修工事完成双葉郡熊町村より大野村大河原字へ通ずる里道改修工事は昭和八年十二月十一日の起工になり當時土地買收其の他にて多少の曲折があつたが、平素村内に信望を有する區長石田政喜氏の熱心なる工事監督と村内有志の努力と相俟つて工費九百餘圓を以つて三月廿日に至り道程五〇〇米此の間暗渠長さ二八米幅員一米五〇の里道を完全に竣工した。

尚同區長は一〇の努力を要し急速度で大河原迄での貫通完成を期待してゐる。

夜の森公園の觀櫻
競馬の人馬が手傳つて全く賑はん

四圍の還境、松の緣りに掩るゝ中風趣に富む高所に艶美を競ふ原町夜の森公園の觀櫻こそは亦一段の樂みに滿たされることである。例年花見頃は原町の春季競馬の人出が手傳つて押すな〳〵の離踏を極め、賣店など半年分喰ふ位の懐ろは溫まる程だとさへ云はれてゐるが本年は種々餘興等もあるとかて一般の賑いを呈するだらふと云はれてゐるが氣の早い連中は滿花下、花見手拭イナセの鉢巻で東京音頭や相馬流山に況を添へてゐるのがポツ〳〵見受けられて此所三四日の内は原町一帶は競馬と花見氣分で大波小波の賑ひを呈することでならふ。

富岡保線區のお花見

毎年區員慰安の能事として富岡保線區ではお花見をするが今年もそうした意味で廿四五日に夜の森農園で觀櫻會をやる由であるが此の間道で拾つた案内狀を見ると中々奮つて居るから轉載して皆さんの花見氣分に一興を添へる。

「それは」鳥うたひ花笑ふ長閑な春が訪れました家の中にのみゐるのはなんとなく此の朗かな春に對して申譯けのなへ樣な氣が致します。それで吾れ〳〵も左記の案により觀櫻會を致したへと思ひますが御賛成下されば私等は一生の幸福です。

但し一應事務所の了解を得る積りです

一、期日　四月廿四五日頃

一、場所　夜の森公園

富岡町長 早川清久
助役 生駒京四郎
役場員一同
消防組頭 大原榮三郎
土木監督所長 須藤清藏
營林署長 山崎泰義
郵便局長 蛭田恭三
登記所長 小泉源作
双葉郡農會長 石川任明
書記 井出証明

●社告●

坪幸太郎

右者本社富岡支局長として入社致候間本社同樣御聲援願上候

昭和九年四月廿日

東北商工時報社

原町土木建築請業 庄司卷造

富岡町會議員 渡邊誠明
坂本重作
堀川半次
佐藤熊造
石井仁太郎
横田源之助
三瓶一見
佐藤清光
遠藤喜一
鈴木兵彌
渡邊實

秋田齒科醫院 院主 秋田一

木村内科小兒科醫院

大蒲燒 押田

旅館 龜屋本店

旅館 中屋

富岡 二業保健組合

開業 株式會社郡山商業銀行 二本松支店

上岡村長 山田六郎
遠藤助役
消防組頭 早川嘉吉
夜の森驛長 遠藤清
魚問屋 泉新助
御料理 ふたば屋
日用品菓子雜貨 小林商店
半谷農園夜の森觀櫻客歡迎園内 各商店一同
夜の森驛前理髮業 遠藤學
結髮業 遠藤ツネ

▼新築落成▲

富岡町 相馬屋酒店

夜の森櫻花版

半谷翁の遺蹟
名花と共もに——後世に香し

曾つては東北方に於ける政治的にも亦産業の上にも大人才として光つて居た、故半谷翁は終世を擧げて燃ゆる國家的觀念に生きると共もに常に地方開發の爲め最善の努力を盡しつゝ在つた偉人である。

その遺蹟は今や地方開發の資源となり現在にみる双相繁榮を招來するに至り、進んで第二の尊德翁として翁の遺勳は後世の軌範として推戴さるゝに至る。宏豊なる農園の櫻花亦年と共もに榮え、翁の遺業を如實に物語つて居る。

而して故翁の遺志は英才語揃える令息等によつて繼承され愈々益々半谷翁の美德は萬世に傳えられんとするのである、思ひみよ櫻花の美觀に醉ふの時翁の面影は花間に彷彿たるものがあるではないか而して翁の遺德を偲ふ地方有志は相謀り翁の頌德銅像の建設を急きつゝありと聞く欣懷に不堪。

——（櫻の森の夜園農谷半）——

一目千本の櫻の森の夜

見渡す限り十余町花のトンネル一目千本の眺に飽かぬ双葉郡上岡（半谷農園）夜の森の櫻花は恐らく東北切つての名花である例年の花時には近郷近在は勿論、遠く東京關西邊よりの觀櫻客でさしもに廣き園内も處狹きまでの大賑いを呈するが本年は特に園主半谷氏も花見客のために馬力をかけ園内の整理其の他で多大の費用を惜まず懸命になつてゐるし、地元民も大乘氣で景氣を付けてゐる園内には餘興手踊り、女相撲等其の附近一帶は擧げて花見氣分に醉ふてゐるが夜櫻の眺めなど一間置きに雪洞、電球飾の施ありてコボレルばかりに妍を競ふて咲き誇る薄紅の櫻花に映照する樣その美觀得も言はれぬ風情である農園は夜の森へ降車一丁余行くと左へ折れ二町迄はない處ころんで遊べる芝布の清園である、驛頭には遠藤驛長氏の肝煎りとも見へる花見氣分の雷洞が美しく立並び驛へ着くとすぐ樣陽氣な花見氣分を味はゝれる事も誠にうれしい。

✻✻✻廿六七日頃見頃✻✻✻

夜の森の花

丸一旅館の八重子さん

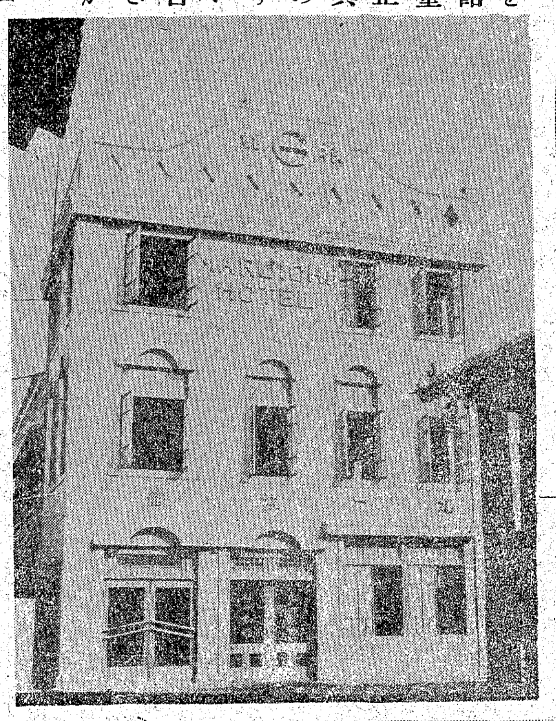
丸一旅館女將

夜の森驛前を飾る丸一旅館のスター八重子さん芳記正に十八才寫眞の通り僞りのない別品ですお客の取扱いが親切だと言ふことで皆さんから可愛がられゐます。相當に字を書くし、踊も中々巧者だと言ふ評判です一度會つてサービス振に接して見給ひ花見氣分になれます。

如才のない

丸一旅館の女將

彼れだけの大屋臺を控いて女給の七八人も使いビクともガタとも言はせなつ前愛くるしい當世風の顔いで而かも朗のうちに總へと牛乳の風呂へ三年もつかを切つて廻してゐます。ドつてゐたよゝな奇麗な玉のウデス皆さん利發相な面持肌の持主です、氣だてもよく客も親切だといふので評判です、一度は會つてやつてくださいキットなかヂャ花も一曾華かにみられます



丸一屋旅館

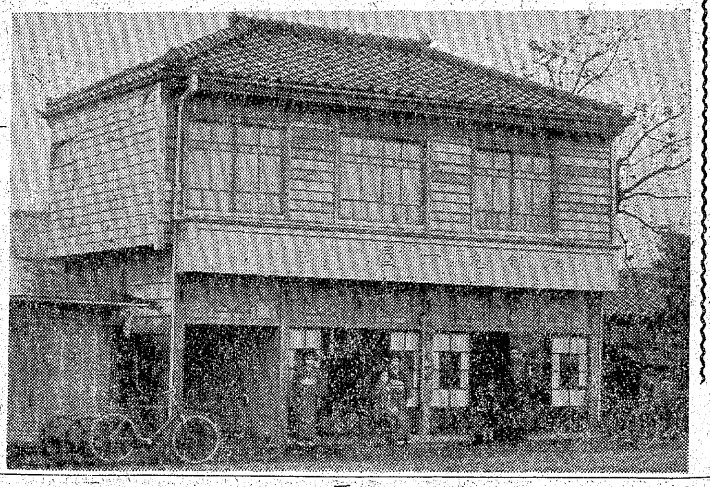
丸一旅館八重子

夜の森の花

ゑび壽屋旅館のなかこさん

夜の森驛前で親切と大勉强で古くから通つてゐる一ちがマサ〳〵と寫眞に表はれてはゐません？

ゑび壽屋なかこ



丸一屋旅館

夜の森驛

成績最も優良

常磐線の夜の森驛は逐年益々優良なる成績を示して居ることは周知の事實なるが驛長としての遠藤清氏の識見敏腕にかゝる結果によるものとして地元民等も非常に喜ばれてゐるが昭和八年度年度分の成績は左の如く異狀的好成績をあげてゐる

施客一萬一千七百五十四圓
貨物一萬九千九百八十六圓
合計三萬一千七百三十六圓

✻花見小唄✻

花の森驛長　遠藤清氏作

一、おぼろ夜の森
櫻の名所
花のトンネル
花のトンネル十余町
木の間木の間に
雪洞搖らく

二、花の吹雪を
醉顏にうけて
千鳥足して
千鳥足して十余町
木の間戸毎に
柔手は招く

三、ひとり踊れば
つゞいて踊る
つゞく踊子
續く踊りは十余町
此の子あの子の
シナのよさ

四、惜しやあらしに
散つた散つたさくら
花のちり布く
花のちり布く十余町
來ぬ間木ぬ間に
葉櫻ひかる

夜の森驛前商店一同

明朗なる村治

大甕村愈々豊榮と向陽氣分に漲る

相馬郡中の大村として原町小高町、太田の三町に連なる大甕村は農産業に目醒めたる優良村として知らる。現村長今野義意氏の代に至り一曾農産業は開發せられ亦助役伏見清身、收入役木幡治氏の兩氏等よく村長補翼の任を全ふし現在の明朗な村是を布くに至つてゐることは最も特筆に價いするものがある。

教育

教育機關として輪廓的設備整ひ將來公容の充實愈々完成を期し以て教授訓練の効果一曾著大を見んとしてゐる。

實業補習學校　男子部は青年訓練と唇齒輔車の關係にあるを以つて互に協力し内容の充實を計りたること久しき結果日尚淺きにも不拘就學生歳毎に多きを加へ盛況を呈するに至る。

青年訓練所　訓練所は指導員の熱誠と後援者の激勵宜しきにより訓練成績逐年良好に進みつゝあり。

社會教育事項　村内の團体は夫々相當の補助を受ける事業の開拓に努めつゝある各自の修養以外に平素奉仕的作業に努力し、男子青年團及び少年消防隊等成績良好を認められあり。

農商

勤業事務は從來の方針に則り村農會並に各種組合と協力して産業の振興を計畫し且つ村農會、養豚組合繭業組合、養蠶實行組合、漁業には補助金若くは奬勵金を交付し大に本村産業の開發に活動せしめつゝあり、特に繭業に至つては年々多大なる收益を得てゐる。

衛生

衛生施行完備し居れり。

土木

昨年度分に於ける主なるものは村道萱濱、櫻井線村道萱濱原町線村道折戸、小木迫線完了、災害復舊橋梁工事、大甕地内船橋、小濱地内雁柄橋、丸山橋、野馬橋江井地内車屋橋の五橋梁は全部復舊完成す。

農村振興土木事業たる太田川河川改修工事、村道北原萱濱線道路改修工事は殆んと終了し雫船溜設備工事完成、外に西川原堰上江堰尾浸場、蛭澤、溜池、北原地内の東原溜池、米々澤排水設備工事の六ヶ所全部完成

納税成績改善に就ては其の方策一二にして止まざれ此一二組合の活動を促進するにあり、組合數は現在四十八にして中多年優良の成績を繼續する堤谷組合は依然として好成績を擧げ下江井及萱濱組合亦之れに劣らざる努力を示しつゝあるは他の範となりつゝあり、是の如きは納税者の自覺と部落有志の指導宜ろしきに依る結果たるは言を俟たず

納税施設

床屋さんの古椅子に納まつて村政をみる

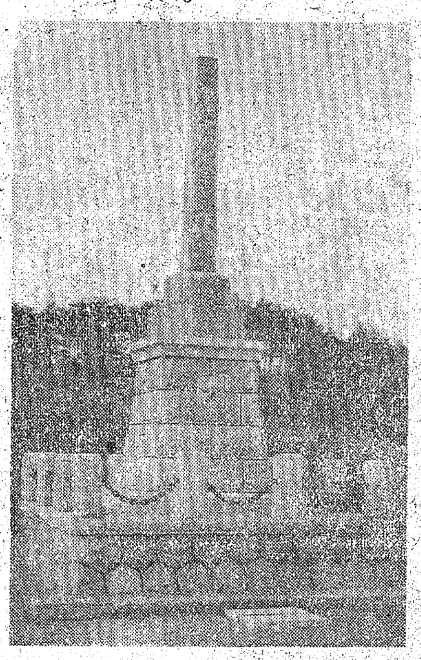
勤儉力行村長で知られてゐる大甕村の今野村長さん彼の大な体でいつも床屋の古椅子にカッシリト腰をかけて熱心に村政を見てゐる處最も奮つてゐるソコで記者がそれは床屋の椅子ですかと云いば村長咳一咳所謂此所に勤儉があるんです。

四月三日 盛大なる建碑式を擧行された

大甕村の忠魂碑

相馬郡大甕村今野村長甫村全体が擧つて誠忠之士の威德を崇敬し後世永かく勇士の忠魂を頌慰すべく建碑されのが此の寫眞の忠魂碑である。

工費八百七十圓、人夫實に二千人の奉仕的工事努力によつた立派なものである。



如何に全村民が誠忠に燃えてゐるかを建碑が如實に物語つてゐるではないか。

× × ×

大甕村信用組合成る

相馬郡大甕村は優良村として豊穰なる大村であるにも不拘信用組合設置のなかつたことを最も遺憾とし現村長今野義意氏をはじめ村民總体の意向は此の設立に燃えてゐたがその希望は達せらるゝに至り昨年十二月廿九日に至り創立口數（四百〇八）（二百七十六名）によつて、三月八日許可を見たので株金の拂込完了次第實行に移る手筈にて目下その順備に忙殺されてゐるが今回初代組合長となつ佐々木勇助氏は定評ある堅實なる理財家であり、專務理事としての五來直氏亦頗る信用に富む敏才家として週知され將來の盛隆を今より待望されてゐる。

敏才な助役氏と謹厳な收入役君

伏見大甕村助役の敏才はよく相貌が表徴してゐる常に村長を補佐し村治の萬全を期してゐる。

大甕村では本月十七日全村小學校講堂に於て時事記日の催しかあつたが參會者は村長外名譽職員其の他有志の多數あり頗る盛會であつた。

大甕村の時事記念日

木幡收入役話しかけねば一日でも二日でも話をせぬ無口謹嚴な人物であるが、それて偶々正論をドシ〳〵と吐くこともありと聞く何にしても實際眞面目な人格者ではある。

廣告

棚倉町長 收入役 宗田利助　田中信次

東白川郡土木請負業 江口伊六　佐川義房　菊池常吉　白坂章

全郡笹原村 和泉屋旅館

全郡浅川村 白川屋旅館

全郡棚倉町 柳屋吳服店

全郡塙町 小川屋服吳店

全郡塙郵便局長 泰春次

全郡笹原志保温泉 小峰堅藏

石城郡上三坂 扇屋旅館　美那登屋旅館

東白河郡鮫川村湯野田温泉 鈴木旅館

全郡仝村局長 大池康美

全郡豊里村消防組頭 荒川清

全郡宮本村消防組頭 水野政三

近津驛長 大和田泰治

石井驛長 市尾祐宗

東館驛長 大沼忠義

金澤消防組頭 金澤壽

東白川豊里村塙料理旅館 花屋

東白河豊里村鐵道省指定 那須屋旅館

磐城塙驛長 長島寅吉

東白河郡高城村 助役 松本千代松

收入役 戸田富二

村長 小林猪之助

助役 長田政之

收入役 小林多吉

東白川郡常豊村 村長 藤田賢次郎

助役 荒川武雄

東白川郡笹原村 村長 鈴木喜廣

助役 園部健在

收入役 鈴木喜兵工

東白川郡近津村 村長 戸部平藏

助役 下重宇衛門

收入役 武地美三

東白川郡竹貫村 村長 大樂彦次郎

助役 赤坂運作

收入役 大平通

東白川郡豊里村 村長 高信正明

助役 益子彌市

收入役 高信定之助

社告

近頃本社名巧妙に利用する者有之由聞知候に付ては年來の本社名東北商工時報社との有無御確めの上御聲援願上ます。